

「ファイバースノウ」の収穫開始*は 5月26日頃からと予想!

※子実水分が約30%になる時期

《本年産の特徴と適期収穫》

○4月中旬頃に気温が一時高く推移し、遅れていた生育が少し進みましたが、4月下旬から5月上旬にかけて、気温が平年並からやや低く推移したため、現在の生育は平年よりやや遅れています。

○5月12日時点の穂の水分から、収穫適期（子実水分25%以下）は昨年より4日程度遅いと予想されます。

○向こう1か月の気象予報では、気温は高い見込みで、今後収穫適期は予想より早まることもあります。

上記の予想を参考に、適期収穫ができるように早めの準備をお願いします。

“収穫作業は安全確認を充分行い、事故を防ぎましょう。”

【近畿地方 1か月予報】

大阪管区气象台5月15日発表

(令和7年5月17日～6月16日の天候見通し)

○向こう1か月の気温は平年より高い見込み、降水量は県北部では平年並か多い見込み、日照時間は県北部では平年並か少ない見込みです。

収穫作業のポイントは裏面→

《収穫作業のポイント》

1. 大麦の収穫適期は子実水分25%以下！

早朝・夕方・降雨後は、穀粒の水分が著しく上昇するため、収穫作業は避けてください。また、栽培面積が大きい場合は、子実水分30%を切ったタイミングで、収穫を開始してください。

2. 必要に応じて刈り分けの判断を！

以下のような場合は、刈り分けが必要です。

- ・ 赤かび病の発生が多い
- ・ 遅れ穂が多い（選別時、未熟粒が混入する恐れがある）
- ・ 倒伏の程度が大きい
- ・ 雑草の種子が混入する恐れがある（カラスノエンドウ等）

3. 赤かび病被害粒は別仕分けを！

目視によるチェックを行い、赤かび病の被害粒が多く見られた場合は、別乾燥や別調製するなど仕分けを徹底してください。

4. 収穫後は速やかに乾燥施設へ！

ムシによる品質低下や、赤かび病の感染拡大を防ぐため、収穫した麦粒は長時間放置することは避け、速やかに乾燥施設に搬入しましょう。

5. 刈り遅れに注意！

刈り遅れると、穂発芽や倒伏の増加、赤かび病の発生等で品質低下のリスクが高まります。

○収穫に向けて今一度、排水対策の徹底を…！

登熟期の湿害は減収するだけでなく、品質を大きく低下させます。また、大豆の播種作業を計画的に進めるためにも、排水溝を点検し速やかに排水されるよう、溝さらえなどを徹底しましょう。